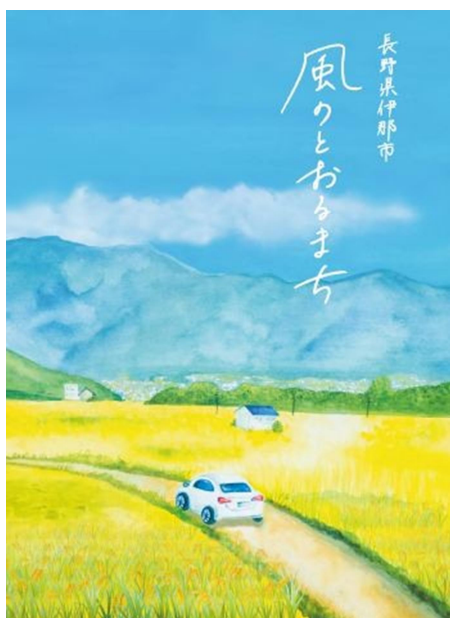


新しい移住ガイドブックが完成しました

これまで使用していた移住ガイドブック(令和2年3月制作)は、子育てファミリー層に特化した内容でした。移住・定住相談窓口や移住相談会、銀座 NAGANO、ふるさと回帰支援センターなどを通じて、年間約 1,800部を配布しています。

制作後6年が経過したため、コンセプトやデザイン、掲載コンテンツを一新し、令和7年度事業により、新たな移住ガイドブック「風のおるまち」を制作しました。



<新しい移住ガイドブック制作にあたっての概要>

目指す方向性

「伊那市に行ってみよう」と思ってもらう

まずは伊那に足を運び、地域を知り、地域とつながるきっかけの一つとする。

対象の読者層

都会の暮らしや働き方に疑問を感じ、移住を考え始めている方より幅広い年代層を対象にし、特にアプローチしないと移住に結びつかないであろうターゲット層へ訴求。

タイトル「風のおるまち」

多くの移住者が口にする「伊那市は風とおしがよい」という言葉をタイトルに設定

物理的に気持ちよい風が通るという気候や風土を表すのと同時に、人との距離がちょうどよいという意味を込めた。

コンテンツのこだわりポイント


読んだ後に「風がおった」と感じてもらえるようなコンテンツやデザイン

地域の人とつながることができるイベント情報や、地域とのつなぎ役となる人、先輩移住者の情報を充実。

また、さわやかな風を想起させるような、開放感あふれる風景と、その風景を表現するようなやわらかな色彩。



←移住ガイドブック
はこちら

添付資料 

本件に関するお問い合わせ先

新規の移住ガイドブックについて

これまで使用していた移住ガイドブックは、令和2年3月に制作し、子育てファミリー層に特化した内容としていました。

移住・定住相談窓口や移住相談会、銀座 NAGANO、ふるさと回帰支援センターなどを通じて、年間約 1,800 部を配布しています。

制作後 6 年が経過したため、コンセプトやデザイン、掲載コンテンツを一新し、令和 7 年度事業により、新たな移住ガイドブック「風のとおりまち」を制作しました。

<新しい移住ガイドブック制作にあたっての概要>

目指す方向性

「伊那市に行ってみたい」と思ってもらう

- ・まずは伊那に足を運び、地域を知り、地域とつながるきっかけの一つとする。

対象の読者層

都会の暮らしや働き方に疑問を感じ、移住を考え始めている方

- ・より幅広い年代層を対象にし、単身者や 30~40 代の女性を中心とした、特にアプローチしないと移住に結びつかないであろうターゲット層へ訴求。

タイトル 「風のとおりまち」

多くの移住者が口にする「伊那市は風とおしがよい」という言葉をタイトルに設定

- ・物理的に気持ちよい風が通るという気候や風土を表すのと同時に、人との距離がちょうどよいという意味を込めた。

コンテンツのこだわりポイント

読んだ後に「風がとおった」と感じてもらえるような、コンテンツやデザイン

- ・移住のミスマッチを減らすには、移住前から地域の人とつながり、移住に対する具体的なイメージを持ってもらうことが大切であるため、地域の人とつながることができるイベント情報を追加し、地域とのつなぎ役となる人や先輩移住者の情報を充実。
- ・また、先輩移住者のとある 1 日の過ごし方を通じて暮らしの紹介や、リモートワー

クや地元就職、フリーランス、新規就農など、伊那での多様な働き方を紹介。

・さらに、伊那の観光名所や名物、生活に密着したスーパー、伊那暮らしにまつわるエピソードなどの情報を追加。

編集者・協力者

※令和7年3月31日現在の所属等で記載

○ガイドブック編集チーム

全体調整： 伊藤汐里（地域創造課）、藤井香織（集落支援員）

ライター： 柳井麻友美（地域おこし協力隊）

デザインアドバイザー： 佐藤純子（地域おこし協力隊）

○協力者

イラスト： 手塚ほたる（地域おこし協力隊）、村田和也（企画政策課）

撮影協力： 澤 広行（地域おこし協力隊 OB）、小淵幸輝（集落支援員）

題 字： 伊藤汐里（地域創造課）

○制 作

株式会社 A PIECE（エイピース）